



絆

教育目標

未来を創る生徒の育成
自分の未来を切り拓く力
ふるさとの未来を築く力

別海町立別海中央中学校

校長 小崎 伸人
令和7年(2025年)3月24日
第1351号(18号)

自己有用感を高め、未来を生き抜く中央ブランドの構築を目指して
＝三兎を追え！ 生徒全員に活躍の機会を保障する＝

終わりが始まり

校長 小崎 伸人

感動的な卒業式を終え、3年生たちはそれぞれの夢に向かってこの愛すべき色褪せた校舎から新たな世界へ旅立っていきました。3年生のいない学校、教室はどこか空虚な気持ちにさせられ誰も座っていない机が美術の作品の一部のように感じます。

そう惜別の情に浸るさなかに別海中央小学校の卒業式に参列させていただきました。小学校中での最高学年としての立派な態度に感動しながらも、この子たちが新入生として4月から来ることを思うと、またわくわくした気持ちを取り戻しました。2年生は最上級生として、1年生は先輩としての準備が進んでいるにも関わらず、自分自身のみが前に進んでいないことを恥ずかしく思い、今はこれから生徒と教職員全員で作り上げる新しい物語に思いを馳せています。

何かの終わりは、新たな何かの始まりを意味します。「卒業」はその最たるものですが、人生の中においては多くの終わりと、それと同じ数の始まりがあります。また、しっかりとした区切れがなくても、重なるように新たなことが始まっていることも多くあります。特に中学校3年生は「最後の」という枕詞が多く使われ、それが大団円で終わることを大きな目標として一生懸命に取り組みます。その分、一生涯忘れられない大きな思い出として心の中にとどまり続けます。それを最も近くで見ている教職員は生徒たちと心を同じにして取り組み、素敵な思い出を蓄積し、また仕事に対する情熱を深めていきます。今ある職業人としての私たちは過去の生徒たちに形づけられ、新たに出会う生徒たち、新たに作られる思い出がまたプロ教師としての血肉となります。特に卒業式当日に生徒たちから「ありがとうございます」という言葉をもらいますが、先生もまた生徒に育ててもらっていることを考えると素直に「ありがとうございます」と言いたいです。

卒業、入学という終わりと始まりだけではなく、各学期や行事についても同様で、常に終わりは始まりを意味しています。3学期のことを次年度に向けた「0(ゼロ)学期」と表現することも多くあり、今の1, 2年生もそれぞれの始まりに向けた準備が進んでいます。大きかった制服も体に合うサイズになりましたし、体の成長に伴って間違いなく心も成長しています。しかし、これは学校の手柄ではなく、様々な活動を支えてくれ、心に寄り添ってくれている保護者や地域の方々がいからこそ大きな成長につながっていることを自覚し、感謝の念でいっぱいです。生かし生かされているという気持ちを今後も忘れることなく、目の前の生徒一人一人の成長を見守り、促すプロ職業人としての先生を極めていきたいと思えます。

令和6年度が終わります。そして、令和7年度が始まります。この1年間、生徒たちから多くの感動、たくさんの笑顔をもらいました。保護者の皆様におかれましてはこの1年間の子育て、大変お疲れさまでした。お陰様で、とても充実した日々を送ることができました。保護者、地域の方々からいただいたことへの『恩返し』は、『恩送り』で生徒の素晴らしい未来へつなげていきます。いつの世も生徒の笑顔のために頑張り続けるのが私たちの職業です。その活力を与えてくれるのも生徒の笑顔です。何よりも勇気や元気を与えてくれる生徒の笑顔溢れる学校となるよう今後も努めていきますので、来年度もご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。